



# みなみ

宇都宮南高 P T A だより

## 第 73 号

発行日 平成20年12月24日  
 発行者 栃木県立宇都宮南高等学校  
 P T A  
 編集者 栃木県立宇都宮南高等学校  
 P T A 広報部  
 印刷所 (株)松井ビ・テ・オ・印刷  
 〒321-0904 宇都宮市陽東5丁目9番21号  
 TEL 028 (662) 2511



## マラソン大会の日はエコライフ



## マイ箸・マイどんぶり&エコキャップ



ペットボトルのキャップを集めて  
 世界の子供たちにワクチンを届けよう  
 ♥エコキャップの収集推進中♥

### 目次

|               |         |
|---------------|---------|
| ・ マラソン大会      | P.1     |
| ・ 教頭・副会長挨拶    | P.2     |
| ・ PTA活動・みそづくり | P.3     |
| ・ 文化部発表会      | P.4, P5 |
| ・ マラソン大会      | P.6     |
| ・ 修学旅行        | P.7     |
| ・ 部活動報告       | P.8     |







かわいい子には苦労を

教頭 佛田 清隆

生徒会新聞のインタビュの中で宇南高の印象について聞かれたとき、咄嗟に「忍たま乱太郎」の登場人物のような癒し系「とこたえました。朝日新聞の日曜日『学ぶ』のページでは、落第忍者と冠を付けていますが、私は乱太郎の両親はあのようないい子をもって幸せだろうなと思っています。さきほど、”癒し系”といいましたが、もっと具体的にいうと、常に明るく前向きであることと、他のものを蹴落とすといった意地悪なことを考えないところです。確かに忍者としては物足りないものがあるのですが、私の見方では、乱太郎は満点の子どものものです。

きにどう対応するかが大きな課題となります。また、いずれ就職することになりますが、同僚との人間関係を大切にしながら、与えられた職務は果たさなければなりません。厳しい義務が課せられることもあるでしょう。そのような状況にうまく適応できるような力が必要です。

そこで、子どもたちがいまのうちから少し苦労をさせてみたのです。もちろん、部活動に参加し日々大変な苦労をしている子もいることは重々承知しています。しかし、そこは自らが好むことを選んだので、予期できる苦労です。自分が好むと好まざるとしなければならぬのが必要です。

その最初が、毎日の授業をきちんとときき、最低1日2時間の家庭学習を実行する、時間的に無理な子はそれに相当することを確認することです。なんとこれも学力は社会人として重要な基礎です。次に、自分の希望進路達成のためにできるだけの努力をし、絶対に逃げないという強い精神力を持つことです。

保護者の方の中には、そんなにしてまでという方もいらっしゃると思いますが、将来本当に”落第”しないためにも、いまのうちに少々苦労をさせましょう。そして、遅しなかつた乱太郎をみるのみなかなかよいのではないのでしょうか。



私と野球

PTA副会長 川島 信一

宇都宮南高PTAの皆さんにとっては、野球といえば高校野球でしょう。今年は春の甲子園出場、夏もあと一歩と、野球部の活躍が目立ちました。わたしにとっては、学童野球でした。今年高校三年になる長男が、小学校三年生の時に学童野球に入ってから、今年、小学校六年生の娘が夏の県大会で負けるまで、延べ九年間にわたって、学童野球と関わりました。宇都宮南高野球部の選手たちも、みんな野球を始めたのは学童野球だと思っています。始めたばかりは、キャッチボールもできなかつた小さな子が、練習を積み重ねることによって、すばらしい選手に変わっていくその過程は、学童野球ならではの感動を保護者に見せてくれます。

昔は、小学校のスポーツといえば野球しかなかったもので、どこでも部員がたかさんいたようですが、今では、サッカー、水泳、ミニバスケットなどいろいろあるので、どこの野球部も部員集めが大変なようです。でも、野球以外のスポーツをして野球



部に入らない子が増えているよりも、ゲームばかりしてスポーツをしない子が増えているので、野球部の部員集めが大変になっています。スポーツは体を鍛えるだけでなく、礼儀を身につけたり、集団生活を学んだり、また、友達といっしょに行動することの喜びを味わったりして、子どもたちにとっては大人になるために必要なこととして、学校の勉強と同じように重要なことだと思っています。確かに保護者の負担は、子どもがゲームをしているより、スポーツをしている方が大きいかもしれませんが、それだけの価値があり、それだけの喜びもきっとあると思います。

どの子どもも同じように活躍できるわけではありません。それでも、大会で勝ったときや、子どもが活躍したときは、どの親も涙を流して喜び合いました。この感動を一人でも多くの人に味わってほしいです。それは、きつと子どもたちのためにもなるし、しいては、よりよい社会づくりのためにもなると思われるからです。

## PTA関東大会

PTA副会長 神山多美江

自然と科学の融合された新都市、茨城県つくば市に於て第54回PTA関東大会が七月四日、五日の両日開催されました。今年のメインテーマ「原点に戻って考える——教えること・育てること・そしてPTA——」に沿った内容で二日間参加させていただきました。

初日は茨城大学学長特別補佐三村信男先生の「地球温暖化問題と私たちの未来」の記念講話がありました。世界の各地での地球温暖化が与える影響について、これからどう取り組むか、考えさせられた内容でした。

大会二日目の分科会では「高校教育とPTA」のテーマで、栃木県では鹿沼高等学校の事例発表がありました。我校と同じ男女共学普通科の進学校です。で、共感できることも多く大変参考になりました。同行いただいた佛田教頭の前任地ですので、休憩時間等に細部にわたり伺うことができました。このような有意義な催しに参加させていただき感謝申し上げます。



茨城大会のシンボルマーク



8校球技大会



七月六日(日)晴れ。最高気温三十三度の夏空の下、8校球技大会は雀宮中で開かれました。炎天下汗だくになりながらも初回ランニングホームラン、絶妙のセーフティバウンドの攻撃と息の合った連携プレーの守備が光ったソフトボール。

二人の男性メンバーの参加でさらに力を得て素晴らしいチームプレーで守って打って接戦を繰り広げたバレーボール。目が離せない緊張した試合運び、素敵なチームワークに選手も応援も一つとなった試合でした。

数回の練習にも参加してチーム作りして頂いた選手皆さん、応援して下さいました先生方、PTAの皆さん、運営協力の厚生部の皆さんお疲れ様でした。

## 朝の交通街頭指導実施

生活指導部

生活指導部では、学校で行っているさわやか活動に協力する形で昨年度より通学路に立ち交通街頭指導にあたる。

今年は9月24日、26日の3日間と12月15日、17日の3日間の2回例年の3ヶ所(セブンイレブン前・雀宮駅南踏切・マルカ冷蔵前)で朝8時から8時半の30分間実施した。日頃の登校時の様子を把握しようと観察したが、宇南生は気持ち良く挨拶をする生徒さんが多く、朝から元気をもらえた。比較的問題なく通学している生徒がほとんどではあるものの、音楽用のイヤホンに耳に、走行している人や始業時刻に間に合わせるためにスピードを出している人も見受けられた。また、踏切付近は道幅が狭い割には交通量が多く、かなり危険を感じた。

宇南は立地上、自転車を利用して生徒が多いが、現実には安全とはいえない箇所も存在する。まずは生徒ひとりひとりが安全に対する意識とゆとりのある行動に心がけて欲しいと感じた。

ありがとう  
藤野ボランティアさん

## 宇南高のみそづくり

家庭科 赤羽 知子

寒中にクラスごと実習の一部としてみそづくりを体験している。戦国時代に脚光を浴びた、関東で好まれる赤みそに仕上げている。材料は大豆・塩・米麹・ぬるま湯のみ。時間の関係で業者の手を借りた(茹でた大豆をつぶして塩配合)。まんべんなく混ぜ合わせ容器に投げ込み詰めるまでの作業のみである。「この米何、くさい」と米麹や豆の感触で賑やかな声に包まれる中で楽しそうに作業が進む。

千三百年も前より日本の風土が育ててきた発酵食品であり、良質なたんばく質源で米との相性も抜群。がん予防や老化防止の機能が謳れる中、若者には省ける一品となりみそ離れが顕著で、宇南生も例外ではない。江戸時代に書かれた「本朝食鑑」には「医者に金払うより、みそ屋に払え」のことが載っている。日本の食の柱のひとつであったのに。この伝統食品がどのように作られるのかを学ばせることで伝えられることも多いと考えている。

手前みそだが、生徒たちが心をこめ、主に野球部員が空気が入らぬよう投げ込んで仕込んだみその味は格別である。芳醇な香りとはのかな甘みのある豊かな味わいに仕上がる。この「まっとうなもの」で自然の恵みと知恵の産物に気づかせたい。いつかどこかで、このみそづくりを話題に話の花を咲かせ、それを契機としていろいろな人とつながってほしいとの願いも込められている実習でもある。



みそづくり

空気が入らぬよう  
投げ込んで仕込む

梅雨の天地がえ

このみそは11月のマラソン大会当日にも出番がある。保護者の皆様の手で愛情たっぷりのおいしい豚汁に変身して供される。今年もおなかも心も満足させてくれることだろう。みそは生き続けている。発酵という魔法の力で寝かせて育てる食べ物である。その日まで、さらにおいしくなるよう準備室で寝かせておく。

研修会

PTA秋の研修会、今年は講師に館下規生先生をお迎えし、先生とPTA役員との山崎峰子さんご指導のもと、とんぼ玉製作を行いました。

色、模様、形、一つとして同じものない素敵なとんぼ玉。ストラップやネックレスに加工し、思い思いの作品に仕上げる事ができました。貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。